

JR発足25年の節目にむけ、 今こそJRへの 革マル派浸透問題の 解決を！

JR連合は、JRから過激派・革マル派を一掃し、
国民の皆さんに安心して利用していただける
鉄道をつくるために取り組んでいます。
この問題の解決にむけ、皆様のご支援、
ご協力をお願いします。



日本鉄道労働組合連合会(JR連合)

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10 東興ビル9階
電話：03-3270-4590
Eメール：honbu@jrtu.jtuc-rengo.jp
ホームページ：http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO/

モバイルサイト：<http://www.jr-rengo.jp/m/>

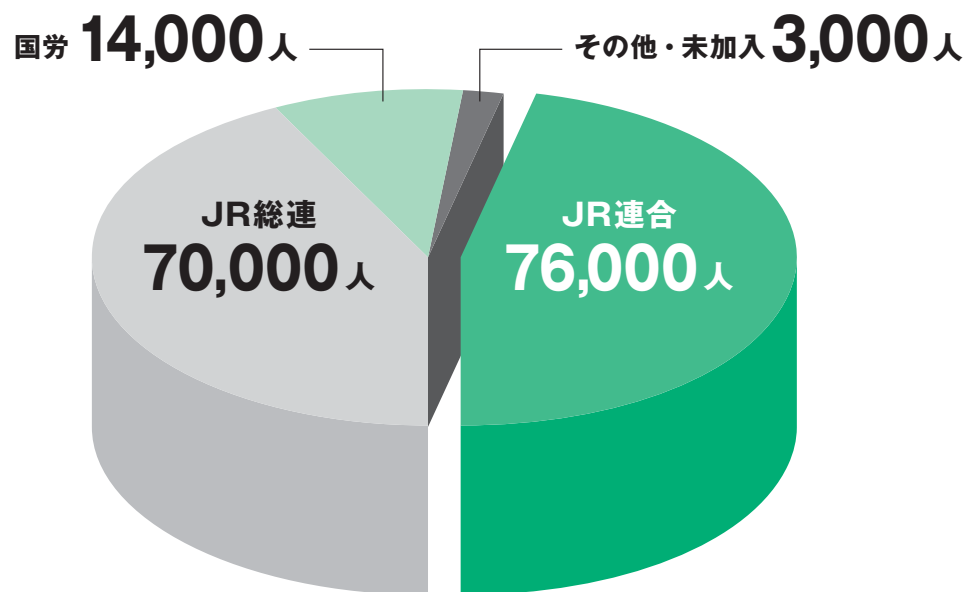


歴代政権がJR総連への 革マル派の浸透を認定しています！

JRには、私たちJR連合（76,000名）のほか、JR総連（70,000名）、国労（14,000名）などの労働組合が存在しています。このうち、JR総連は、JR東労組・JR北海道労組・JR貨物労組を中心に組織されていますが、ここに過激派・革マル派が浸透し、組織を支配していると各方面から指摘されています。

警察は1996年以降、革マル派の非公然アジト15箇所を摘発し、JR総連内における革マル派組織の存在を確認してきました。また、公安調査庁は1999年に発行した年次報告書『内外情勢の回顧と展望』で、「JR東労組の本部・地方大会で革マル派系労働者多数が執行部役員に就任し、浸透が一段と進んだ」と述べました。国会でも、2000年11月の民主党・山下八洲夫参議院議員の質問を皮切りに、この問題が繰り返し取り上げられ、政府もJR総連への革マル派の浸透を認める答弁を行ってきました。

JR内組合別組織人員



厚生労働省「2009年度労働組合基礎調査」等による。

残念ながら現在、JRの労働組合は三極構造となっていますが、私たちはJR労働者のJR連合への総結集を目指しています。

民主党鳩山内閣も歴代政府の見解を踏襲！

国会における最新の動向として、2010年4月27日、自民党の佐藤勉衆議院議員（元国家公安委員長）が『革マル派によるJR総連及びJR東労組への浸透に関する質問主意書』を提出し、政府に対して「JRという公共交通機関の労働組合に、過激派・革マル派が浸透している事態を看過することなく、国の治安維持のために取り組みを強化」することを求めました。これに対して、5月11日に鳩山内閣は「JR総連およびJR東労組内には、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透している」などとする以下の答弁書を閣議決定しました。民主党政権として、歴代政府の見解を踏襲し、JR総連・JR東労組への革マル派の浸透を初めて認定したことになります。

日本革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派（以下「革マル派」という。）は、共産主義革命を起こすことを究極の目的としている極左暴力集団であり、これまでも、火炎びんの使用等の処罰に関する法律（昭和47年法律第17号）違反事件や対立するセクトとの間での殺人事件等、多数の刑事事件を引き起こしている。革マル派は、将来の共産主義革命に備えるため、その組織拡大に重点を置き、周囲に警戒心を抱かせないよう党派性を隠して基幹産業の労働組合等各界各層への浸透を図っており、全日本鉄道労働組合総連合会（以下「JR総連」という。）及び東日本旅客鉄道労働組合内には、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると認識している。今後も、革マル派は、組織拡大に重点を置き、党派性を隠して基幹産業の労働組合等各界各層への浸透を図っていくものと見られる。

詳細はJR連合ホームページをご覧ください！
<http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO/>

第22回参議院選挙における JR総連組織内候補の当選に各界から追及の声！

2010年7月11日投開票の第22回参議院選挙において、田城郁氏（当時 JR 総連政策調査部長）が民主党公認候補として当選しました。田城議員は、革マル派創始者の一人で JR 東労組の委員長や会長を歴任した松崎明氏の運転手を務めていたとされており、松崎氏や JR 総連の関連団体である日本鉄道福祉事業協会の元理事長らが、巨額の公金を私的に流用したとされる業務上横領被疑事件（下記参照）にも関わっていることが明らかになっています。

革マル派が深く浸透しているとされる JR 総連と国政との関わりを注視していく必要があると考えます。

業務上横領被疑事件と田城議員との関係

JR 総連の関連団体である日本鉄道福祉事業協会の口座から、2000年6月に協会の元理事長の個人口座に1億4,888万円、松崎氏の個人口座に7,000万円が振り込まれました。元理事長の個人口座の支出先は、別荘の購入や建築費用、ゴルフクラブ会員年会費など私的な使途に使われた一方、田城議員の口座にも358万円が振り込まれ、同議員のマンション購入の手付け金の補助に充てられたとされています。

なお、この業務上横領被疑事件に関して警視庁が行った家宅搜索と差押えが不当であるとして、JR 総連、JR 東労組や松崎氏ら関係者は、国と東京都を相手に賠償請求訴訟を起こしましたが、この原告の一人として田城議員も名を連ねています。つまり、当時は JR 東労組役員だった田城議員も家宅搜索の対象であったことになります。

2009年6月に下された原告の請求を棄却する東京地裁判決によれば、警察は業務上横領を JR 内の革マル派グループによる組織的な犯行であると判断しています。



田城議員の立候補以前から今日に至るまで警鐘を乱打し続けるマスコミ

マスコミも、革マル派が浸透する JR 総連からの組織内候補擁立の動向については、民主党が公認決定する以前から、警鐘を鳴らしてきました。

また、公認以降も新聞や週刊誌で指摘を受けるとともに、選挙後も月刊誌などで厳しく指弾され続けています。



NHKテレビが生中継する中、衆議院予算委員会で JR総連と革マル派の関係が追及される

国会でも、8月3日の衆議院予算委員会において自民党の平沢勝栄議員が質問に立ち、この問題に関して政府の見解を問い質しました。答弁に立った中井治国家公安委員長は「私どもはJR総連、JR東労組と革マル派の関係については、革マル派が相当浸透していると認識しているのは事実である」と明言しました。



「JR総連とJR東労組の中に革マル派が相当浸透しているということを皆さんが認めている。

その、皆さんが認めているこの組織から、参議院の候補者を公認で出した。ということは、革マルと皆さん方、深い関係ができてくると、そういうことにならないか」

「私どもはJR総連、JR東労組と革マル派の関係については、革マル派が相当浸透していると認識しているのは事実である。そして、閣議の席では、こういう答弁書でいいかどうか、事実かどうかというご質問もあったが、私はそのとおりであろう、このように答えたところである」



衆議院予算委員会（2010年8月3日）議事録抜粋

○平沢委員 そこで、次に進めさせていただきたいと思いますが、まず、パネルを出させていただきます。

このパネルは、ことしの5月11日、鳩山内閣のときに、佐藤勉衆議院議員の質問主意書に対する政府答弁書なんです。だから、ここにおられる閣僚の皆さんのほとんどは、この答弁書に署名しておられるんです。何と書いてあるか。

日本革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派、いわゆる革マル派は、共産主義革命を起こすことを究極の目的としている極左暴力集団であり、これまでも多数の刑事事件を引き起こしている。これは殺人事件を初めいろいろな事件を引き起こしています。革マル派は、将来の共産主義革命に備えるため、各界各層への浸透を図っており、全日本鉄道労働組合総連合会、JR総連及び東日本旅客鉄道労働組合内には、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると認識している。

要するに、JR総連とJR東労組の中に革マル派が相当浸透している、幹部のクラスに相当浸透しているということを皆さん方が認めているんです。その皆さん方が認めているこの組織から、参議院の候補者を公認で出した。ということは、革マルと皆さん方は関係ができてくる、深い関係ができてくるということになりませんか。

○中井国務大臣 国家公安委員長として、この答弁書をつくった責任者の一人として、お答えを申し上げます。このとおり、私どもは、JR総連、JR東労組と革マル派の関係については、革マル派が相当浸透していると認識しているのは事実でございます。こういう答弁を作成してまいりまして、私もいろいろ悩んだわけでございます。質問者は前の国家公安委員長でもございます。

したがいまして、私は、このまま閣議にお出しをするという決心を固め、党にも伝えたわけでございます、こういう方向であると。そして閣議の席では、申し上げていいかどうか迷いますが、これも、こういう答弁書でいいかどうか、事実かどうかというご質問もありましたが、私はそのとおりであろう、このように答えたところでございます。

○平沢委員 この組織の組織内候補者、今度、JR総連とJR東労組、そこの政策調査部長という幹部が民主党の公認で全国比例から出て当選しているんですよ。だから、革マルとの関係ができるんじゃないですか。

総理、もう中井大臣はいいですよ、総理、これはおかしくないですか。そういう革マルが幹部に相当浸透しているという組織の代表、組織内候補を公認して民主党が出してくる、これはおかしくありませんかと聞いているんです。総理、教えてください。

○菅内閣総理大臣 いろいろな労働団体、さらにはいろいろな各種の団体、そういうところから候補者が民主党から出たいということで、当時の執行部として判断されて公認をした、そういうふうに理解しております。

○平沢委員 今、大相撲がなんで問題になっているんですか。暴力団という反社会的集団といろいろな関係があるから大相撲は問題になっているんじゃないですか。民主党と革マルの関係はどうなっているんですか。この辺は党の代表として、総理、しっかりしてくださいよ。

JR総連は革マル派浸透問題に対する見解を明らかにすべきです！

5月11日に閣議決定された政府答弁書や8月3日の衆議院予算委員会における質疑を踏まえ、JR連合は、JR総連に革マル派が影響力を行使し得る立場に浸透しているという事態は、看過することのできない極めて公益性の高い問題であるとの認識から、8月25日、JR総連に対して以下の公開質問状を送りました。

公開質問状

民主党・鳩山内閣は本年5月11日に「全日本鉄道労働組合総連合会及び東日本旅客鉄道労働組合内には、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると認識している」とする答弁書（以下「政府答弁書」という）を閣議決定した。そして、本年8月3日には第175臨時国会の衆議院予算委員会で中井治国家公安委員長は「私どもは、JR総連、JR東労組と革マル派の関係については、革マル派が相当浸透していると認識しているのは事実でございます」と答弁し（以下「大臣答弁」という）、今もなお、政府の認識に変わりがないことを改めて明言した。

これに対し貴組織は、「JR総連通信 No.986」で「『革マル派浸透』風評流布・悪罵を許すな！」として、政府見解を真っ向から否定している。わが国の中心的な基幹産業であり、多数の人命を預かるJRの主要な労働組合に、共産主義革命を目指す過激派・革マル派が、影響力を行使し得る立場に浸透しているという問題は、わが国の治安上の重要課題である。そうした問題を広報し、警鐘を鳴らすことが「風評流布」「悪罵」「悪宣伝」「妨害」であるはずはなく、公益に適う行為であることは言うまでもない。政府見解を一方的に否定する貴組織の主張や姿勢が社会的に許されるはずはない。それならば、国民が理解、納得できるよう、少なくとも、第三者による徹底した真相解明を行うべきである。

さらに、貴組織の現職、元職の幹部役員ら43名が、「JR東労組を良くする会」が「JR革マル派リスト」を作成、配付したことなどに対し2008年9月22日に提訴した民事裁判（以下、「リスト裁判」という）において、原告側は、本年6月30日付の準備書面で「JR内の組合内にはかつては革マル派の組織が存在した」などとする新たな主張を行った。原告側は「経緯を含めて必要な限度・最小限の範囲で明らかにしておく」としていることから、記載以上の詳細な実態を把握しているはずである。かねて革マル派との一切の関係を否定してきた貴組織は、この重大な主張についても、納得のいく説明をすべきである。

JRへの革マル派浸透は、きわめて公益性の高い重要な治安問題であることから、貴組織は、この問題について説明すべき社会的責任がある。以上の認識を踏まえ、下記の事項について見解を求め、誠意をもって回答されたい。

記

1. 政府答弁書、大臣答弁に対する貴組織の見解を明らかにされたい。なお、貴組織への革マル派の浸透が事実無根だとするならば、その根拠を明らかにされたい。
2. 政府答弁書、大臣答弁の内容について、政府に抗議を行う意思はあるのか、貴組織の見解を明らかにされたい。
3. 「JR総連通信 No.986」にある「まじめな労働組合活動、平和や人権を守る活動を“良”としないう輩」とは、政府も指しているのか、貴組織の見解を明らかにされたい。
4. 貴組織への革マル派浸透の問題について、公益に照らして、第三者による徹底した真相解明を行うべきと認識するが、そうした考えはないか、見解を明らかにされたい。
5. 「リスト裁判」において、貴組織の現職、元職の幹部役員ら43名の原告側は、本年6月30日付の準備書面で「JR内の組合内にはかつては革マル派の組織が存在した」などとする新たな主張を行ったが、この内容に関し、以下の点について見解を明らかにされたい。
 - (1) 「JR内の組合内にはかつては革マル派の組織が存在した」などとする内容は、貴組織の公式の見解と理解してよいか。
 - (2) 貴組織は、かねてより革マル派との一切の関係を否定してきたが、従来のそうした主張や見解は虚偽であったことを認めるのか。
 - (3) 貴組織への革マル派浸透の経緯や実態について、貴組織が把握しているすべての内容を詳細に公表すべきと考えるが、どうか。
6. 上記の点について、9月3日までに文書で回答されたい。なお、本状および回答については公開することを申し添える。

この公開質問状に対して、JR総連は「貴労組からの公開質問状に対し、答える理由もなければ、義理もないものと判断します」とする回答を返送してきました。JRへの革マル派の浸透という公益性に関わる問題に対して、回答を拒否するというJR総連の姿勢は社会的に許されるはずはありません。JR総連は、国民が理解、納得できるよう、第三者による徹底した真相解明を行い、説明責任を果たすべきです。

革マル派の組織的特性と危険性とは？

革マル派（正式名称：日本革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派）は、共産主義革命を究極の目的とする過激派集団であり、他党派との間で「内ゲバ」を繰り広げ、多数の死傷者を出すなど陰湿なゲリラ事件を引き起こしてきました。最近では、表面上暴力性を隠して、組織拡大に重点を置き、周囲に警戒心を抱かせないよう党派性を隠して労働組合など各界各層への浸透を図っており、JR総連には革マル派活動家が相当浸透していると指摘されています。今回のJR総連組織内議員の誕生に関して、革マル派による国政への浸透を企図する動きについて警戒心を持つ必要があるといえます。



「焦点」258号

革マル派がJR総連に浸透することによって 職場では何が起きているのでしょうか？

JR浦和電車区事件は悪質な犯罪です！

JR浦和電車区事件とは、2000年末から翌年夏にかけ、JR東労組所属の運転士・吉田光晴さんが、私たちJR連合の組合員と交遊したことなどを理由に、JR東労組の役員などから職場で集团的な糾弾や恫喝を受け、組合脱退、さらには会社退職にまで追い込まれた強要事件です。この事件については、前述の衆議院予算委員会において平沢議員も触れています。

事件の加害者であるJR東労組の役員ら7名は、2002年7月に逮捕、起訴され、東京地裁は2007年7月に有罪判決を下すとともに、2009年6月には東京高裁が被告らの控訴を棄却する判決を言い渡しました。被告らは、最高裁へ上告しましたが、事実関係は明らかことから、近いうちに判断が示されるものとみられます。なお、JR東日本は、東京地裁判決を受けて、2007年8月に社員籍のある6名全員を懲戒解雇しています。

一方、被害者である吉田光晴さんは、2007年12月、JR東日本を相手に復職を求める民事訴訟を起こしましたが、JR東日本と和解が成立し、2010年1月、晴れて8年半ぶりに復職を果たすことができました。労働組合の任務は、働く者の助け合いを通じて幸せを築くことにあります。また、私たちJR労働者にとって、安全の確立が最重要課題であることは言うまでもありません。その労働組合において、働く仲間を集団でいじめて退職に追い込むなどという人間の尊厳を否定し、安全を破壊する行為が許されてよいはずはありません。

JR浦和電車区事件は、JR総連の暴力的運動により発生した事件であり、同様の事件は他にも多数起きています。JR総連に浸透する革マル派を一掃しない限り、事態の真の解決にはなりません。JR連合は、安全で安心なJRを創るために、JR東日本・JR北海道・JR貨物の「民主化」にむけて取り組んでいます。



私たちは職場から暴力を追放し 安全で明るいJRを創るために 取り組んでいます！

JRは2012年4月に発足25年の節目を迎えますが、革マル派がJRに深く浸透しているという深刻な事態は、国鉄改革の負の遺産として未解決のままです。この問題の解決無しに、真の国鉄改革の完遂はありません。JRは、我が国の動脈を担う公共交通です。そのJRの中でも最大のJR東日本に革マル派が浸透し、影響力を行使しているという事実は、安全・安定輸送の観点からも絶対に放置しておくことのできない問題です。

JR連合は、JRから革マル派を一掃し、国民の皆さんに安心して利用していただける鉄道を創るために取り組んでいます。

この問題の解決にむけ、各位のご理解、ご協力をお願いする次第です。

